

天草市立本渡中学校公開授業

研究主題

自ら「学び続ける力」の育成

【主題設定の理由】

- 国や県の学力・学習状況調査の分析に基づき、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業の工夫改善を行い、熊本の授業づくりの質を高める計画的、組織的な取組を推進する必要がある。
- 授業づくりにおいて、生徒が「分かる」「できる」を実感しながら学習意欲を高め、「自ら『学び続ける力』を身に付ける」ことを目指したこれまでの取組を一層進めながら対話的な学びの充実を図り、深い学びへとつなげていきたい。
- 自分に必要な学習のための計画的な家庭学習の実現に向けて、学校・生徒・家庭で連携を図りながら家庭学習の充実につながる取組を進めていきたい。

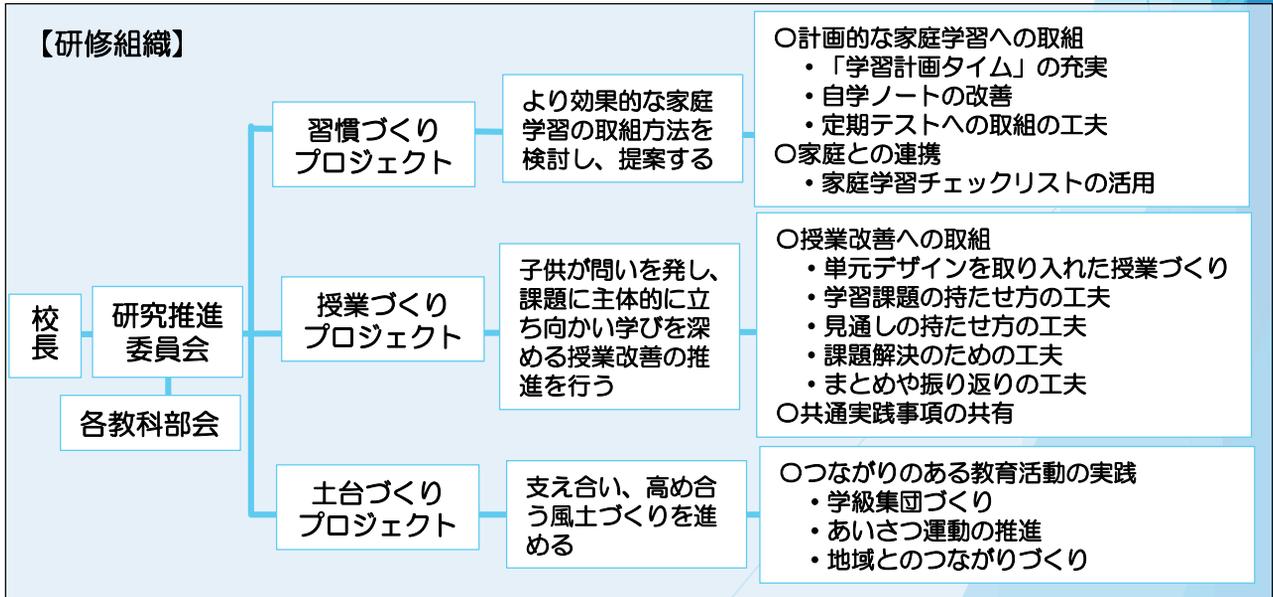
【研究仮説】

生徒に身に付けさせたい資質・能力を育成するために、生徒が問いを発し、課題に主体的に立ち向かい、学びを深める授業改善とともに家庭・地域と連携を図りながら学習効果を高めるための取組を推進することで、改善・充実の好循環を生み出し、生徒の自ら「学び続ける力」の育成が図られるであろう。

【生徒に身に付けさせたい資質・能力】

生徒に身に付けさせたい資質・能力として「行動する力」「思いやり認め合う力」「学び続ける力」を掲げる。特に「学び続ける力」の育成については、何が課題なのかを考える「課題を見つける力」、どうすれば解決できるのかを考え、判断する「見通す力」、行動に移し解決に向かう「解決する力」、自らの学びを振り返り新たな課題を発見する「振り返る力」に分類し、授業改善を行っていく。また、学習習慣の形成と人間関係づくりについても重点課題として取り組んでいく。

【研修組織】



目指す学校の姿

- 活力と自信に満ちた学校
- 地域に信頼され、地域とともにある学校
- 生徒にとって一人一人が大切にされ、安心して学べる学校
- 全職員の参画でより良い学校を創り上げる学校

【学校教育目標】
 10年後、20年後の社会を
 たくましく生き抜く
 基礎力の育成

目指す教職員の姿

- 教育者として誇りと使命感を持つ教職員
- 情熱と豊かな人間性を持つ教職員
- 教科等の専門性を深めようとする教職員
- 教育的愛情を持って生徒に関わる教職員

目指す生徒の姿

- 自らの気づきで積極的に行動する生徒
- 人との関わりを大切にし、相手を思いやり、自他共に認め合う生徒
- 自ら課題を見つけ、解決のために挑戦し、主体的に学習する生徒

可能性

への挑戦

重点的に育成を目指す資質・能力
 (自立) : 行動する力
 (礼節) : 思いやり認め合う力
 (探求) : 学び続ける力

A

(改善)

P

(計画)

～ 重点取組事項 ～

習慣づくりプロジェクト (自立)

- ①課題に気づき、考え、行動する自治的な生徒会活動の形成
- ②自己の将来や社会づくりにつながるキャリア教育の充実
- ③探究的な学びで進める総合的な学習の時間の充実
- ④自らの課題を克服する家庭学習の実践

※知識・技能に関わる事項

授業づくりプロジェクト (探求)

- ①「学び続ける力」の育成を目指した授業づくり
- ②授業力向上に向けた取組
 - 教科会の実施
 - 相互の授業参観の実施
 - 共通実践事項の共有

※思考力・判断力・表現力に関わる事項

土台づくりプロジェクト (礼節)

- ①安心と信頼にあふれ高め合う学級集団づくり
- ②UDの視点を取り入れた教室環境づくり
- ③地域とのつながりを持った教育活動の実践
- ④心をつなぐあいさつ運動の推進

※学びに向かう力・人間性等に関わる事項

保護者

地域

学校

生徒

学校

【経営の基盤】

「つながりのある教育活動の実践」

生徒と生徒 生徒と先生 先生と先生 学校と家庭・地域

学校運営協議会 PTA活動 教職員集団 生徒会活動
 本渡中校区教育推進会議 若竹会

C

(評価)

D

(実践)

行政

「熊本の学び推進プラン」に基づいた単元デザイン

単元を通して学んだ姿を設定し、内容や時間のまとまりを見通して授業を構想しています。

大切にしていきたい
3項目

1

○単元終了時の生徒の姿
「単元の目標」「単元の評価規準」などを根拠に生徒の単元のゴールの姿を設定する

2

○単元を通した学習課題
単元のゴールに迫る、単元を通した学習課題を設定をする

3

○単元で働かせる見方・考え方
学習指導要領に基づき、単元で働かせる見方・考え方を具体化する

単元終了時の生徒の姿

学び続ける力をつけるために、問題解決する過程において、既習事項と結びつけながら構想や見通しを立て、解決の方法や内容、順序を見直したりして、数学的な処理の方法を理解し、的確かつ能率的に用いることができる生徒。

単元を通した学習課題

連立方程式の問題を分析し、既習事項と結びつけながら、問題を解決しよう。

本単元で働かせる見方・考え方

連立二元一次方程式に関する問題を解決する際に、一元一次方程式や既習の知識及び技能と関連づけながら統合的・発展的に考えること。

指導計画と評価計画（13時間取扱い、本時5/13）

過程	時間	学習活動	評価の観点等 ★は記録に残す評価の場面で「具体の評価規準」
----	----	------	----------------------------------

2つの文字を含む方程式とその解について知ろう

★**【態一①】** (ノ・ト・行動)
★**【知一①】** (ノ・ト)

○単元の学習計画
単元全体を見通して、単元のゴールの姿を実現するための学習計画をまとまりとして設定していく

単元における時間や内容のまとまりにめあてを設ける

連立方程式の解き方について考えよう

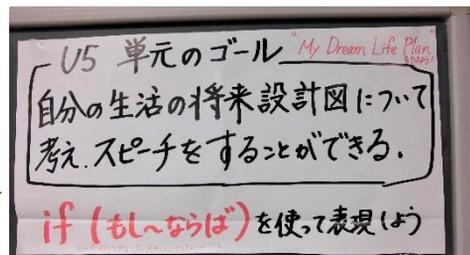
2	6	数量の関係を図に表し、図の操作との比較から連立方程式の解法を見いだす。	【思一①】 (ノ・ト・行動)
		絶対値の等しい係数を持つ連立方程式の解き方について考える。 学習課題：1つの文字を消去するには、どうすればよいだろうか。	★【知一③】 (練習問題) ○絶対値の等しい係数を持つ連立方程式を加減法により解くことができる。
		係数の絶対値が違う連立方程式の解き方について考える。(その1) 学習課題：1つの文字を消去するには、どうすればよいだろうか。	★【思一①】 (ノ・ト) ○等式の性質を用いて係数の絶対値をそろえることにより加減法を用いて連立方程式を解く方法を考えることができる。
		係数の絶対値が違う連立方程式の解き	【知一③】 (ノ・ト)

4

5

○生徒との共有化
単元の過程やゴールの姿を生徒と共有する

単元のゴールを
掲示しながら授業
を進める
(英語科の取組)



習慣づくりプロジェクト

計画的な家庭学習

生涯学び続けることができるように、授業と家庭学習のサイクルをつくったり、家庭との連携を図ったりしながら、より効果的な家庭学習の取組方法を検討し提案していきます。

学習計画タイム

これまで学習習慣の確立を図るために本校で取り組んできた「自学タイム」をより充実させるため、家庭で取り組む学習の計画づくりを中心にした「学習計画タイム」に変更しました。「学習計画タイム」では、家庭学習の教科、内容、時間について担任が生徒一人一人へアドバイスをを行っています。

学習計画を立てるまでを学校でやろう!



- ◆ 学習計画タイムの進め方について、生徒会学習委員会で説明用プレゼンテーションを作成し、オリエンテーションを行い、全校で同じ取組ができるようにしています。

家庭との連携

家庭学習チェックリストの活用

- ◆ 家庭学習のチェックリスト(家庭編・生徒編)を成績カードと共に配付し、保護者にも家庭学習への働きかけをお願いしています。

(2) テストの振り返り

学習時間は、あかたけなど、学習の取り組み方が悪かったので、それを直していきたいと思いました。授業の内容もよく分かるような聞き方をしたいと思いました。	振り返りの視点 ①教科ごとの得点・結果、目標は達成できたか。 ②テスト前の学習はどうだったか。 ③普段の授業の様子 ④今後の学習の取り組み方
--	--

(3) 家庭学習チェックリスト

(1.できている 2.だいたいできている 3.あまりできていない 4.できていない)

自分で	自分で計画したことに取り組んでいる。	- 1 - 2 - ③ - 4 -
自分で	その日の学習の復習その日のうちにできている。	- 1 - ② - 3 - 4 -
チェック	もっと知りたいことや興味のあること、疑問に思ったことをテーマにした自主学習に取り組んでいる。	- 1 - 2 - ③ - 4 -
保護者と	机の上は学習用具だけで、集中できる状態になっている。	- 1 - 2 - ③ - 4 -
一緒に	子どもの自学ノートを見て、ほめたりアドバイスしたりしている。	- 1 - ② - 3 - 4 -
チェック	学年の最低学習時間以上取り組んでいる。 (1年生 1.5時間 2年生 2時間 3年生 2時間)	- 1 - 2 - ③ - 4 -

- ◆ 定期テストの成績について、学習計画・振り返り・家庭学習チェックリストを1つのファイルにまとめてポートフォリオにすることで、生徒が自らの学習について、PDCAサイクルを確立できることを目指しています。

自学ノートの改善

- ◆ 授業と家庭学習のつながりを持ったサイクルをつくっています。



「友達の自学ノートに学ぼう」の掲示コーナー



- ◆ その日にあった5教科(国社数理英)は、その日のうちに復習することを基本としています。また、土日は1週間の総復習に取り組んでいます。

定期テストへの取組



定期テスト学習計画表

- ◆ 定期テストに向けて学習計画を立て、その取組を担当がチェックしています。



- ◆ 定期テスト後には、テストに向けた取組の振り返りを行い、今後の学習の取組を考えています。

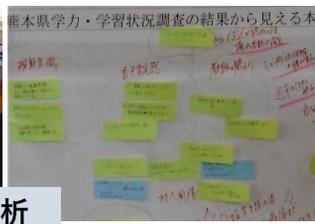
授業づくりプロジェクト

共通実践事項の共有

生徒が問いを発し、課題に主体的に立ち向かい、学びを深める授業づくりを推進していきます。また、共通実践事項を共有するために、生徒の実態把握を行い、研究授業を重ねながらPDCAサイクルを機能させ、研究を深めていきます。



P 生徒の実態分析



◆「熊本県学力・学習状況調査」の結果を受け、生徒の実態把握を行い、具体的な生徒の姿を共有しています。



P 研究授業の事前検討会

◆ 研究授業の事前検討会で、「熊本の学び」における「大切にしていきたい3項目」などを中心とした授業参観の視点を共有しています。

P
(計画)

S
(共有)

◆ 授業研究会では、参観の視点に即して検証を行い、「バトン・パスシート」を作成し、次の研究授業で改善する共通実践事項を共有しています。



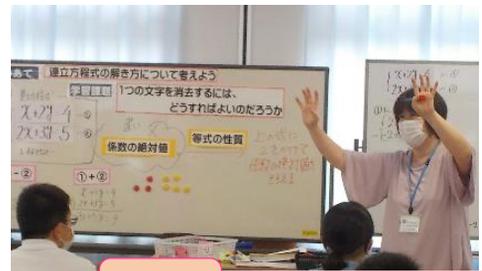
研究授業「バトン・パス」シート

令和2年7月8日(水) 第3校時	2年2組 数学	授業者 田中美代子 教諭
1 構想案について (別紙参照) 構想案の形式について、確認をお願いします。		
(1) 単元終了時の生徒の姿 ・本校のブランドデザインを鑑みて作成する。		
(2) 指導計画と詳細計画 ・小単元ごとに「めあて」を設定するわかりやすい。 ※教科によってあってもなくてもよい。		
2 授業について		
(3) 既習事項の確認 ・既習事項の確認は、自力解決への橋渡しとして行う。		
(4) 生徒の「やってみよう」「なるほど」が生まれ、 ・「分かった」「できた」「もっとやってみよう」が生まれるまでや振り返りの工夫がされているか		
(5) 生徒の「なぜ」「おそらく」が生まれる学習課題が設定されているか		
3 次回の研究授業で意識すること		
生徒が自分の言葉で説明する場面の設定。(本時のまとめなど) 生徒が改善する一教師ではなく、改善した生徒に説明させる。		

次の授業者へのメッセージ

「次回の研究授業では、本時のまとめなどで、生徒が自分の言葉で説明する場の設定を行いましょう。」

A バトン・パスシートの活用



D 研究授業の実施



◆ 年間12回の研究授業を行い、研究の視点に沿った各教科等の授業実践を重ねています。

D
(実践)

S
(共有)

C
(評価)

研究授業参観シート		参観者()
日(水)	第3校時	2年2組 数学
授業者	田中美代子 教諭	
単元終了時の生徒の姿(単元のゴールの姿・期待される姿)		
単元を通した学習課題(単元の中心的な学習課題)	本単元で働かせる見方・考え方	
単元を通した学習課題(単元の中心的な学習課題)	単元を通した学習課題(単元の中心的な学習課題)	
単元を通した学習課題(単元の中心的な学習課題)	単元を通した学習課題(単元の中心的な学習課題)	
単元を通した学習課題(単元の中心的な学習課題)	単元を通した学習課題(単元の中心的な学習課題)	
参観の視点 (付箋紙に気づきを書いて貼ってください。)		
1 生徒の「なぜ」「おそらく」が生まれる学習課題が設定されているか	2 生徒の「やってみよう」「なるほど」が生まれ、 ・「分かった」「できた」「もっとやってみよう」が生まれるまでや振り返りの工夫がされているか	
3 生徒の「分かった」「できた」「もっとやってみよう」が生まれるまでや振り返りの工夫がされているか	4 授業を通して、「単元終了時の生徒の姿」に ・既習事項の確認は、自力解決への橋渡しとして行う。	
5 生徒の「なぜ」「おそらく」が生まれる学習課題が設定されているか	6 生徒の「やってみよう」「なるほど」が生まれ、 ・「分かった」「できた」「もっとやってみよう」が生まれるまでや振り返りの工夫がされているか	

<参観の視点>

- 「なぜ」「おそらく」が生まれる学習課題が設定されているか
- 「やってみよう」「なるほど」が生まれる工夫がされているか
- 「分かった」「できた」「もっとやってみよう」が生まれるまでや振り返りの工夫がされているか
- 「単元終了時の生徒の姿」に向かう手立てが行われているか

C 授業参観シートの活用

◆ 研究授業参観シートを用いながら、参観の視点に沿って授業を検証しています。

授 業 改 善

授業づくりでは、生徒が「分かる」「できる」を実感しながら学習意欲を高め、自ら「学び続ける力」を身に付けることを目指していきます。

学習過程

つかむ
「課題を見つける力」

生徒の「なぜ」「おそらく」が生まれる学習課題の設定



さぐる
「見通す力」

生徒の「やってみよう」が生まれる工夫



ふかめる
「解決する力」

生徒の「なるほど」が生まれる工夫



まとめる
「振り返る力」

生徒の「分かった」「できた」「もっとやってみよう」が生まれるまとめや振り返りの工夫

手立ての工夫

学習課題の持たせ方の工夫

日常生活と結び付けた課題設定
動画などを用いながら学習課題を日常生活と結び付け、課題意識を高めるようにする。

(理科の実践から)

単元のゴールとのつながりを意識した学習課題の設定
1単位時間の中で、生徒が学ぶ意味を問いながら学習に取り組めるような課題を設定する。

(英語科の実践から)

見通しの持たせ方の工夫

キーワードや図式化による

既習事項の確認
本時に必要な既習事項をキーワードを用いたり図式化して整理したりしながら示し、確認を行う。

(数学科の実践から)

課題解決のための工夫

課題解決のための効果的なICTの活用

古文の文章をすらすらと読むことができるようになるために、1人1台のタブレットを準備し、各自の理解度に合ったスライドを活用して練習を行う。

(国語科の実践から)

課題解決のための話し合い活動
それぞれの考えを班で交流し合い、疑問点を解決しながらよりよい考えを導き出す。

(国語科の実践から)

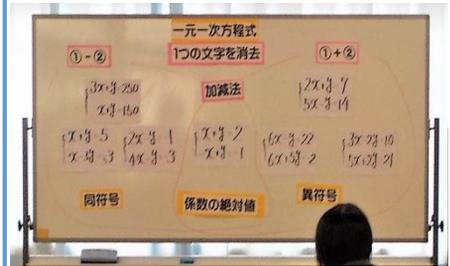
まとめ・振り返りの工夫

単元のゴールを意識した本時のまとめ・振り返り

ワークシートや振り返りシートを活用することで、本時で何を学んだのか、学習内容がきちんと理解できたのかを確認する。

(社会科の実践から)

活動・指導の様子



土台づくりプロジェクト

「生徒と生徒」「生徒と先生」「学校と家庭・地域」それぞれがつながりのある教育活動の推進に向けて、支え合い、高め合う風土づくりを進めていきます。

つながりのある教育活動

学級集団づくり

◆ 学期末に学級の実態アンケートを実施し、結果を分析しています。また、学級の課題は生徒達で発見し、改善に向けた学級目標を設定しています。

◆ 学びを支える人間関係づくりの場としてハートフルタイムを実施し、対話に関する指導・支援を行っています。ここでは「傾聴」の大切さや、「協力」の意義などについて班活動を通して指導を行っています。



学級の課題を発見し、目標を決定する



「傾聴」の姿勢で相手の話を聞く



班で「協力」して新聞紙タワーをつくる

天草市立本郷中学校
土台づくりプロジェクト

学習班編成について

○本郷中学校では、以下の項目を目的として、学習班編成・座席指定を行います。

- 話し合いの充実、深化
- なかまづくり
- リーダー育成 Small Leader ※生徒にも説明をお願いします。

○基本、教師が編成します。
ただし、班長選出については、立候補や推薦、アンケートの実施など、学級裁量です。
「学び合いの基盤」となる班編成です。担任の先生が案を作成されたあと、学年間などで、多くの人の目で見てもう一度アドバイスをもらうのもよいかと思えます。

○基本的に4人から6人で班を編成してください。班は9班です。(特別教室の座席の関係)

◆ 学級内の実態に合わせて、班編成の工夫を行っています。また、「話し合い活動の充実、深化」「なかまづくり」「リーダー育成」を目指しています。

地域とのつながり



地域学校協働活動推進員による呼びかけ

◆ 「第7回あまくさ子ども芸術祭」の企画・運営に携わるために、地域学校協働活動推進員から生徒へ参加の呼びかけを行っています。



地域の方による読み聞かせ

◆ 地域交流や、生徒達の心の育成のために、朝の読書活動時に、地域の方による読み聞かせを実施しています。

◆ PTA生活育成委員会の朝の見守り活動や、生徒達との草取りボランティア活動、資源物回収を行っています。



朝の見守り活動

あいさつ運動の推進

◆ 生徒会が中心となって、朝のあいさつ運動に取り組んでいます。また、学級ごとに、当番を決め全校生徒が取り組むことで、挨拶への意識向上につなげています。



通学路であいさつ運動を行う

あいさつがよくなりましたね。



新聞投稿をしてくださった地域の方

◆ 「中学生のあいさつがよくなっている」との新聞投稿を教室に掲示し、活動の成果を実感させています。

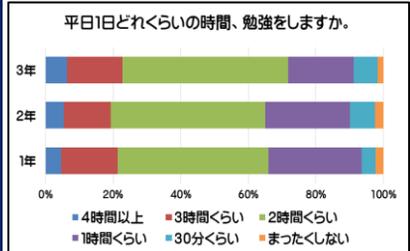
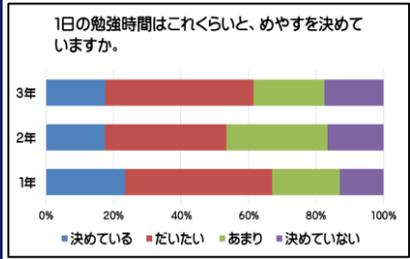
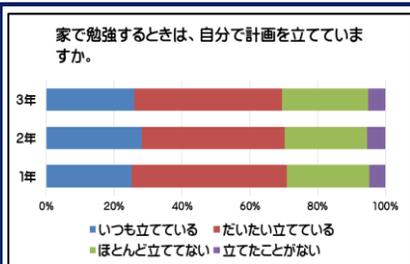
研究の検証

生徒アンケートを1学期末に実施した。
今後、学期末毎にアンケートを実施し、変容を確認していく。

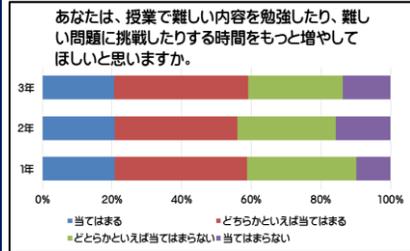
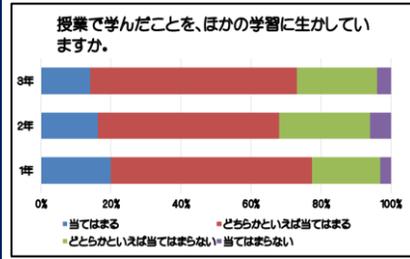
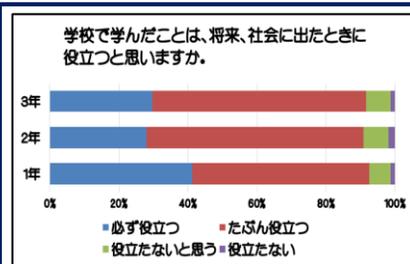
習慣づくりプロジェクト

授業づくりプロジェクト

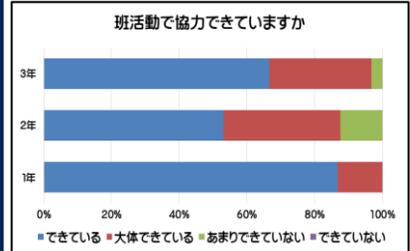
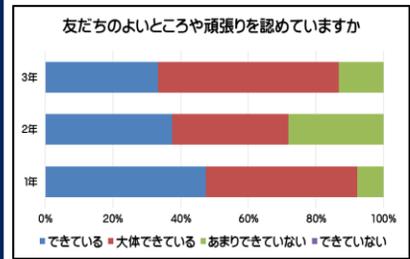
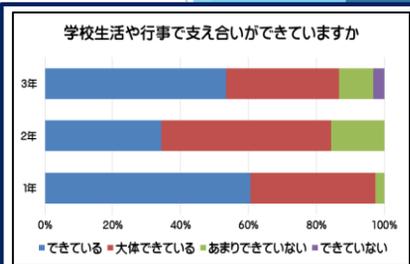
土台づくりプロジェクト



「学習計画表」や「学習計画タイム」の活用により、約70%の生徒が家庭学習の計画が習慣化している。しかし、学習時間のめやすを決めている生徒は約60%しかおらず、平日の学習時間については、1時間以下になっている生徒が約40%いる。「学習計画タイム」でより具体的な内容をアドバイスをしていかなければならない。



全学年を通して、ほとんどの生徒が学校生活や授業で学んだことは今後役立つと考えている。しかし、自ら難しい課題に挑戦しようとする意欲は高いとは言えない。「学び続ける力」を育成するためにも、自ら課題を見つけ、見通し、「分かった、できた、もっとやってみよう」という意識が生まれる授業づくりが必要である。



学年によって差はあるものの、友人と協力し合って学校生活を送っている生徒は80%を超える。お互いを認め合おうとする雰囲気づくりについては課題もある。班活動が軌道に乗っているため、「ハートフルタイム」をはじめとする学校全体での取組を通して、支え合い、高め合う風土づくりを更に進め、自分の考えを安心して発信できる環境を整えていく。

今後の方向性

本年度は、「単元デザインの工夫」を中心として研究を進めてきた。特に「大切にしていきたい3項目」では単元のゴールや単元を通した学習課題など単元を見通した授業構想を行ってきた。授業づくりでは「学習課題の持たせ方の工夫」と「見通しの持たせ方の工夫」を中心に、学校全体として取り組みながら実践を重ねている。今後は、話し合い活動の工夫を行いながら対話的な学びの充実を図り、深い学びへとつなげていきたい。

家庭学習の充実に向けた取組としては、「学習計画タイム」を設け、家庭学習の充実に取り組んでいる。生徒会学習委員会がプレゼンテーションを作成するなど生徒自ら計画を立てて、自分に必要な家庭学習の実現に向けて取り組み始めた。今後も、学校・生徒・家庭で連携を図りながら取組を進めていきたい。

つながりのある教育活動の実践においては、これまでの学級づくりやあいさつ運動に加え、地域学校協働活動推進員と協力しながら地域ボランティアの読み聞かせの実施などに取り組んできた。来年度も「生徒と生徒」「生徒と先生」「学校と家庭・地域」がつながりのある教育活動を実践するために、支え合い、高め合う風土づくりを進めたい。